

2024.5.23 (木)
第 42 回例会
(通算3757回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI 会長 ゴードン R. マッケナリー
第 2500 地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ 青少年奉仕月間

本日のプログラム 嵯峨記念育英会新入生紹介 (嵯峨記念育英会委員会)

次週例会 会員卓話 (プログラム委員会)

■ロータリーソング：我らの生業 ■ソングリーダー：高橋 直人君

■会員数 103 名

■ビジター

■ゲスト 北海道釧路湖陵高等学校 延壽 拓斗君 北海道釧路北陽高等学校 伊藤 悠緋君
武修館高等学校 山本 茉音さん 同担任 元島 恵美先生

会長の時間

後藤 公貴会長



皆さん、こんにちは。お食事中の方はどうぞお続けただいてお耳だけお貸しいただければ、と思います。

本日は、私どもの伝統事業であり、継続事業であります釧路ロータリーカップアイスホッケー大会について少しお話をさせていただきます。

昨年 11 月の開催をもって 30 回という節目を迎えました。コロナ禍において数度の開催できない事態があったのですが、今年度、この節目の大会を終えて、かねてから、「ロータリーカップの開催趣旨、または目的について、いまはどうなのだろう」とか、ご存知のとおり「少子化が進んで、なかなかチームが立ち行かない高校の現状、等々を踏まえた中で、根本的に見直してみたらどうか」、または「開催を断念することも考えてみてはどうか」、という意見がいろいろとございました。そして、上期の情報集会においてもこのロータリーカップについて皆さまに忌憚のないご意見をいただきたい、等々のお願いをしてまいりました。その結果、今年の 3 月末になりますが、釧路のアイスホッケー部を持つ高校の指導者の皆さまと、私と佐藤幹事、そして高橋会長エレクトとで 8 名が懇談をさせ

ていただきました。

「この大会の意義・目的について、まず一から考えてみましょう」と、先生たちに投げかけたうえで、私から 3 つのお願いをさせていただきました。まずは、生徒たちのためになっているのかどうか、そしてこの氷都・釧路を代表するスポーツのアイスホッケー振興にきちんとつながっているのかどうか、そして最後は、この釧路地域のためになっているのかどうか。この 3 つがきちんと歯車として回っていかない限りは、この大会は難しいのではありませんか先生、とこの点を踏まえて一から考えてください、ということでお互いに 1 カ月間の考える時間を設けました。

4 月にもう一度お会いをした結果、「従来どおりロータリーカップを高校生の成長、競技の振興、スキルアップを目的に開催を継続していただきたい」と教諭たちから私どもにお願いをされたところであります。何も変わっていないのではないかと、というお声もあろうかと思いますが、実はしっかり考えたうえで、継続するという決断に至ったことを皆さんにご報告をさせていただきます。

次年度の開催は 12 月 7・8 日の両日となります。そして、先生たちからのご提案は「次々年度については、7 月、もしくは 8 月の開催を考えていただきたい」ということであります。この 7 月、8 月の開催については、現在の高校アイスホッケー界では 8 月の苫小牧でのサマーカップ大会が幕開けの大会だそうです。先生

たちの思惑の中で、釧路に7月もしくは8月に高校の幕開けの大会を持って来たい、そして高校アイスホッケーをなんとか盛り上げて行きたい、という意図があるのだらうと思いました。

当然、高橋エレクトにも次年度の開催についてはお願いをしましたし、次々年度の開催の経緯についても荒井ノミニーはお伝えをしたところでありました。

ぜひ、皆さまには、これまで30回の歴史を紡いできた高校アイスホッケーの選手たち、また釧路のアイスホッケーを支援する大会ですので、なお一層の引き続いてのご理解とご協力をお願いしたいと思っております。

やめることは簡単です。でも、やめたらもう二度と戻らないのですね。なので、ぜひ、皆さま、なんとかこの趣旨・目的をもう一度思い出していただいて、いろんな意見はあると思いますが、みんなで一枚岩になって、どうぞこの事業を盛り上げていただきたいと考えているところであります。

そして本日は、嵯峨記念育英会奨学生の新入生をお招きした例会であります。本年度は3名の育英会奨学生が誕生しております。ぜひ、生徒たちの意気込みをこれから真摯にわれわれで伺いたいと思っております。

そして、その報告終了後に、過日より皆さまにお願いをしておりました「釧路ロータリークラブ細則改定の件について」を皆さまにご審議とご採択をいただきたいと思っております。

本日は盛りだくさんの内容となっておりますが、ぜひ、皆さまのご協力をお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

本日も一日、どうぞよろしくお願い申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さま、こんにちは。

幹事報告です。前回理事会の議事録が出来上がっております。掲示板に掲示してあります。先ほどのクラブ細則の変更の件とか、アイスホッケーの件、いろいろ討議しておりますのでご確認をお願いいたします。

続いて先日、皆さまにメール・FAXでご案内しております「北クラブ65周年記念のご案内」です。こちらは明日までの締め切りとさせていただきます。こちらは15時から北クラブの記念講演のご案内の対象となっております。その後の18時30分から行われます野村万作さん野村萬齋さんの狂言の公演については別途、チケット購入が必要となっておりますのでお間違えのないようよろしくお願いいたします。

以上、幹事報告になります。

お客様紹介

後藤 公貴会長

本日、ご来訪をいただきましたお客様をご紹介します。順にお名前をお呼びいたしますのでご起立の上メンバーより歓迎の拍手をお受けください。

釧路湖陵高等学校・延壽拓斗君、釧路北陽高等学校・伊藤悠緋君、武修館高校高等学校・山本茉音さん、武修館高校高等学校教諭・元島恵美様。

後ほど、生徒の皆さまからはお話を頂戴いたします。どうぞ、限られた時間ではありますがごゆっくりお過ごしください。

ご挨拶

甲賀 伸彦会員

先日の父の葬儀に際しまして、皆さま方の過分なお心遣い本当にありがとうございました。

初七日も終わり、私が一人っ子ですから母と四十九日まで、あの世に行けるようにやって行きたいと思っておりますので今後とも皆さまのご協力をいただけますようによろしくお願いいたします。

この度は、どうもありがとうございました。

旅行部 杉村 莊平会員

皆さん、こんにちは。ノージャーニー、ノーライフ (NO JOURNEY, NO LIFE)、釧路ロータリークラブ旅行部のご案内です。



ご存じない方もいらっしゃると思いますが、去年、第1回目の旅行部の企画をさせていただきました。金沢の旅に行かせていただきました。性懲りもなく、今年も第2回を開催したいと思っております。

今年は、9月6・7・8日の金土日ですが、高松・金毘羅さんへの旅で皆さまを誘いたいと思っております。現地集合・現地解散ですが、高松に入ってきて金毘羅山でうどんをいっぱい食べていただいて、二日目は倉敷・岡山に渡って神戸で解散というイメージです。詳細につきましては、ボードに貼らせていただきますのと、近日中に皆さまにメールでご案内したいと思います。6月7日が締め切りとなりますので、ぜひ、皆さまからご応募いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

■本日のプログラム■
嵯峨記念育英会新入生紹介

嵯峨記念育英会委員会 西村 智久委員長



こんにちは。嵯峨記念育英会の委員長を務めております西村です。本日は3名の新奨学生をお迎えして、ご紹介の例会です。

去る5月9日木曜日に、当センチュリーキャッスルホテルにおいて選考委員会を開きました。石田理事長、私、高橋副委員長、後藤会長、樋口副会長、吉田秀俊次年度嵯峨委員長の選考委員をもちまして、本日の3名の奨学生を決定したところであります。

これよりスピーチをいただくわけですが、名前を読み上げますのでご登壇の上、一言でけっこうですのでスピーチをいただきたいと思っております。延壽さん、伊藤さん、山本さん、の順番ですのでよろしくお願いいたします。

それではお一方目、釧路湖陵高等学校1年、延壽拓斗君です。よろしくお願いいたします。

嵯峨記念育英会新入奨学生スピーチ
釧路湖陵高等学校1年、延壽拓斗さん

皆さん、こんにちは。釧路湖陵高等学校の延壽拓斗です。

皆さん、僕を奨学生に選んでいただきありがとうございます。僕が高校生活



に望むことは、勉強はもちろん、毎日学校に通い、人を傷つけずともに協力し、自分としての在り方を見つけ、将来の夢の道を外さないように前向きに歩くことです。

まずは、大学進学に向け着実に学力を上げて行きたいと思っております。そして、毎日の学校生活の中で勉強や部活動を頑張り、人とのコミュニケーション能力を高めて行きたいです。将来の夢のために一歩ずつ自信を持って生活をして行きたいと思っております。

今日、このような場でスピーチができたことは自分にとっていい経験になりました。ありがとうございました。

司会 嵯峨記念育英会委員会 西村 智久委員長

延壽君は、ちなみに弟子屈から湖陵高校へ2時間かけて通っているそうです。えっ、っと驚きますよね。すごいな。今のところ、3年間続ける予定ということ

です。

ちなみに、「お爺ちゃんは弟子屈ロータリークラブのメンバーじゃないか」と本人は言っておりました。ご実家はホテル摩周さんですね。ぜひ、お泊りに行っていただきたいです。

お二方目、釧路北陽高等学校1年 伊藤悠緋君です。お願いいたします。

釧路北陽高等学校1年 伊藤悠緋さん



皆さん、こんにちは。釧路北陽高等学校1年、伊藤悠緋と申します。

この度、僕を奨学生に選出していただきありがとうございます。

釧路ロータリークラブさんに支えていただくことに感謝しながらこれからの高校生活を文武両道で頑張っていきたいと思っております。

今日は、このような場にお招きをいただき、本当にありがとうございます。

終わります。

司会 嵯峨記念育英会委員会 西村 智久委員長
学校の行き違いで、昨日、合格しました。来年から改善しなければいけないとつくづく思っております。

三人目、武修館高等学校1年 山本茉音さん。よろしくお願いいたします。

武修館高等学校1年 山本茉音さん



皆さん、こんにちは。武修館高等学校1年、山本茉音です。

かけがえのない高校生活を過ごすために、私は何事も全力で取り組みたいと考えています。

そのために達成したい目標があります。将来の夢を決め、その夢に向かって勉強をすることです。私は具体的に将来どのような職業に就きたいか、どのように生きて行きたいのか、まだ決まっていません。

私には、小学校からの夢だった助産師を目指し大学に通っている姉がいます。苦勞しながらも夢をかなえるために一生懸命な姉の姿を見ていると、姉のように自分がやりたいことをはっきりと決めなければいけないと思わされます。

そのため、高校生活では自分自身と向き合い、将来

を考えて行きたいと思っています。また、自分がどのような選択をしても良いように、今のうちから勉学に励んで行きたいと思っています。

激励のスピーチ

釧路ロータリー嵯峨記念育英会 石田 博司理事長

恒例ですが、五代目理事長であった吉田潤司さんが作られた『嵯峨育英会のあゆみ』について読んでみます。生徒の皆さんは持っていますけ



ど、皆さんはお配りしません。頭の中でイメージを膨らませて聞いていただきたいと思います。

釧路市内の中心を流れる釧路川にかかる幣舞橋から富士見坂を登りきるその途中の木立の中、港を一望する場所に銅像が建っています。釧路の漁業の近代化に情熱をかけた釧路水産会の先駆者、故嵯峨久氏を顕彰した像です。

大正初期の釧路港はマグロ漁業の基地として大変活気がありましたが、当時の漁船は、いわゆる「川崎船」といって、風帆船、帆を張った船です。つまり無動力船でした。台風等の悪天候の際には、港に戻る速度が極端に遅く、悪天候の被害をまともに受ける海難事故が大変多く発生しておりました。そこで、久氏は積極的に漁業者に発動機船の導入を促し、漁業効率を高め、同時に悪天候等による被害を少なくするなど、漁業の近代化に努めました。

また、現在の副港魚揚場に通称・嵯峨岸壁を構築し、マグロの水揚げ効率化に革命的成果をもたらした、釧路の水産業界に大変な業績を残されました。この嵯峨岸壁漁港は完全に民間の埋め立て事業として行われ、卸売市場・冷凍・冷蔵・製氷工場や漁業無線・燃料タンク基地がありましたが、残念ながら昭和20年の空襲で焼失しました。

故嵯峨久氏は釧路漁業の父とも言われた人で、昭和初期に釧路魚菜市場の社長を務めております。

嵯峨氏は若いころ、大変貧乏で、向学心・向上心に燃えていたのですが、経済的理由から十分な勉強をすることができず、成功を取めた後も「向学心に燃えた青少年に経済的援助を与えることにより勉学の機会を与えることができないだろうか」と常日頃、話していたということです。しかし、残念なことにその夢をかなえることができず、昭和35年8月12日、病氣療養中に東京にて客死しました。享年84でした。

当時の詳しい資料はありませんが、久氏は育英会設立に奔走されていたと思われます。嵯峨久氏の後を継がれたご子息の嵯峨晃氏もまた、釧路の漁業発展に尽くされ、経済的な手腕も相当なものがあり、釧路経済界

のリーダーとして活躍された方でした。

晃氏は、その父の夢をかなえようと苦勞を重ねたうえ、久氏が亡くなったおおよそ1年後、昭和36年12月16日に『財団法人嵯峨青少年育英会』を設立しました。当時、育英会を作ろうとすることは大変なことです。当然、現在のようにインターネットで調べることができず、育英会設立の手引書関係の本も皆無で、試行錯誤をしながら設立されました。監督官庁との連絡をひとつとつとつても、長距離電話で交換手を経由し、空き回線を数時間待ちながら、指導を受けて書類を作成するというその努力は想像を絶するものがあります。東京ロータリークラブが主管の米山奨学会が昭和27年設立で、それに遅れること9年で、北海道の片田舎で育英会が誕生したことは特筆すべき出来事ではないかと思われま

す。久氏、晃氏の2人とも釧路ロータリークラブのチャーターメンバーです。嵯峨晃氏は、1961年に分区代理制度ができた時のR I 350地区（当時の北海道は350地区のみ）の初代分区代理を務め、1965-1966年R I 350地区ガバナーを務めております。

晃氏は、育英会設立にあたり、育英会の目的について次のように述べております。

『人のお世話にはならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう。これは後藤新平の言葉ですが、自立、独立の志ある人、この人こそが、われわれの友である。この言葉にあるような人が現在くらい必要な時代はないように思われます。このような若い人を発掘して、われわれのささやかであるが、心の込めた贈り物をぜひ送りたい。これが、われわれ財団の念願であります』。これが設立された嵯峨晃さんのお言葉なのです。

育英会設立当時の資料はほとんど残っておりませんが、設立申請書控え、および当時の預金通帳が残っており、設立時の苦勞が感じられます。資料によりますと、設立時の基金は1,050万円です。現在のお金に換算するとおおよそ1億円前後と考えられます。当時の晃氏は、漁業界はもちろん、釧路市の経済界においても絶頂期にあり、釧路経済界の重鎮として大活躍されていたことが伺えます。

育英会設立時は育英会の運営はもとより、奨学生の募集・選考、奨学金の給付などを1人で行っていましたが、余りの忙しさの中で育英会活動を行う時間が少なくなり、その後、育英会が休眠状態になりました。そのような中、育英会設立からおおよそ10年後の昭和47年4月10日、突然、ご逝去されました。

晃氏のご逝去があまりにも突然だったため、育英会理事長を嵯峨家より輩出することが難しく、やむなく釧路ロータリークラブ会員の泉敬氏が理事長代行を務めることになりました。しかし、泉会員も当時は新進気鋭の弁護士として大変忙しく、育英会活動に多くの時

間を割くことができずに、活動は困難を極めました。育英会および嵯峨家として育英会継続方法を模索しましたが、昭和50年9月に嵯峨家より釧路ロータリークラブに以下のような申し入れがありました。「釧路ロータリークラブに嵯峨青少年育英会を無償で譲渡したいので、以降の運営をお願いしたい」。そこで釧路ロータリークラブは昭和50年10月に臨時総会を開催し、釧路ロータリークラブで運営することが承認されたのでした。



これを毎年、読む機会をいただいて、私たち同じロータリアンとして随分立派な先輩がいたものだ、そのDNAを私たちは維持していきたい

ものだ、と思います。そのような金品はなかなか作ることはできませんけれども、その志だけは持って青少年育成に情熱を持ったロータリークラブでありたい、というのが私の願いであります。ぜひ、ご賛同をいただいで「青少年育成の釧路クラブ」と言われるようになればと思っております。

少し時間がありますので、若い三人に私の経験で申し上げますと、『人生全て 己が因（おのれがもと）』という言葉があります。自分に起こることは、全部自分に原因がある、という考え方があります。

それを論された20代の女性が勤めていた花屋さんで、ひどい上司に苦しむのです。理不尽なことを言うものですから、「自分に原因がある、どんなことも自分に原因があるとして受け止めるのだよ」と言われて、その若い女性は、あの女性店長の姿は自分の姿なのだろう、と思うわけです。そうして、拒否しないで心を開いて、心に向こうに向けると理不尽な女性店長の態度が変わってくるのです。しまいには、すごく仲良くなったのです。

その手記を読んで、「うーん、できるだろうか」。私はどちらかと言うとすぐへたれる、くじけるほうなのです。人生の知恵でくじけたふりはしていませんけれども、堂々としていますけれども、心の中は真っ暗になるほうなのです。それで、全て自分が因か、と。その手記を読むと手記を通して訴えてくるものがあつたのです。それで、ポーンと引き受けたと思ったのです。常に悩んでありますから、その時も、ちょっとした悩みがありましたけれども、「よし、引き受けた」と自分でつぶやいたというか、声を出したかどうか分かりませんが決めた瞬間に、胸の中からグーッと力が湧いたのです。

その後、関連したものを調べると、正対する、真正面から向き合うことで苦しみが無くなる、というものがあつたのです。

自分の人生を振り返ってみると、私は正対していませんでした。逃げていたのです。逃げたふりはしていませんけど、心は逃げていたのです。真正面から向いたふりはしているが、心の中は真っ暗。

そのことに向き合えないとホントに苦しいと分かっていたけど、向き合って「よし、引き受けた」と実際にこうやったら、グーッと力が湧いてきたのです。さらに、それを乗り越えるための方策・知恵が湧いてきたのです。これは生まれて初めての経験です。

なぜそうなるか、メカニズムは分かるのですが、いま説明しませんが。なぜそうなるかが分からなくても、嫌なことがあつたら逃げずに正対する、真っ直ぐ向き合う、さらに「引き受けた」と言ってみる。必ず乗り越えられますから、これ、おまじないではないですから。ホントにいい方法ですから。これからの人生、苦労があるのは当たり前ですから、必ず苦労はありますから、苦労を嫌がらない。来たものは自分に必要だから来たのだと思ったら、必ず乗り越えられます。立派な日本人として、国際人として、活躍されることを応援します。

ありがとうございました。

クラブ細則改正について

後藤 公貴会長

それでは皆さま、よろしくお願ひ申し上げます。

過日、令和6年5月10日に皆さまにメール・FAX等で「釧路ロータリークラブ細則改定について」の説明を添付して送らせていただきました。内容についてはご確認されていることと思いますが、私からご説明をさせていただいて、その後、ご意見をいただいたうえで採択という流れにさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ、よろしくお願ひ申し上げます。

まず、この細則改定をなぜ行うかです。次年度7月1日から当会場・釧路センチュリーキャッスルホテル様の会場費・ご飲食代について値上ということで、今年度初頭に通知をいただきました。もちろん、このご時世ですから当然、承諾・受諾をするという方向で今年度、又は次年度の理事会を中心にいろいろと議論を重ねてまいりました。

そこで、次年度のクラブの予算を組み立てるにあたり、細部にわたって次年度三役がいろいろと見直しを行ったところ、やむなく1万円程度の増額は避けられないという決定を私ども今年度理事会にいただいたところであります。

まずは、年会費を上げるということは、クラブの細則を改定しなければなりません。こちらは第6条第1節の改定です。そこで皆さまにご意見を賜りたいところもありますが、そういった事情が一番の事情であるところとご理解をいただきたいと思ひます。

そして、本日、ご採択をいただいた結果を6月6日

に開催されるクラブアッセンブリーの次年度予算に値上げ後の年会費を計上させていただく流れがありますので、そのための本日だということも合わせてご理解を賜りたいと思っております。

心苦しいというか、苦渋の決断を次年度がされたことにご理解を賜りまして、ここで皆さまからご意見をいただいた後に、採択という流れにして行きたいと思っております。

なにかご意見をお持ちの方がいらっしゃいましたら、私から答えられる範囲で答えさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

青田 敏治会員

値上げをするのはしょうがないだろうと思っております。会員1名につき15,000円程度の増額が必要と書いていましたが、値上げするのは1万円です。いろいろ努力されて1万円にしました、ということだと思うのですが、どの辺を努力したのかを聞きたいです。

後藤 公貴会長

はい、ありがとうございます。高橋エレクト、お答えできますでしょうか。予算作成者はエレクトでありますからエレクトからお答えします。

高橋 直人エレクト

お答えします。予算書は今、手元にないので細かくはお伝えできませんが、いろいろな項目をチェック・確認し、経費の削減等をいたしました。一人15,000円を上げるのは大変だということで、いろいろな所を削減しています。

詳しい項目についてはクラブアッセンブリーの中でご説明したいと思っております。

後藤 公貴会長

まずは、この細則改定をいま、ここで皆さまからご審議いただき、採択いただいた後に、6月6日のクラブアッセンブリーの中で詳しいご説明を聞いたうえで、ご納得いただければ、もう一度ご質問いただければと思いますが、いかがでしょうか。

吉田 潤司会員

15,000円位増えるのに、それを1万円に縮小したということは、努力はいいのですけれど、本当に1年間やって行けるのですか。今後また増えた時に大丈夫なのですか。

後藤 公貴会長

「努力と予算の吟味を重ねた上での1万円の増額だ」と次年度会長からは聞いておりますので、重ねてとなりますが、アッセンブリーで細かい点をご質問いただ

ければと思いますが、いかがでしょうか。

貴重なご意見、ありがとうございました。数点のご意見をいただきました。アッセンブリーまで時間がありますので、個別にご意見・ご質問などあれば、次年度3役、または、私に直接いただいてもかまいませんので、なにとぞご理解をいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、時間も近づいてまいりました。100パーセントのご納得とはならないかもしれませんが、皆さまのご友情で、皆さまの拍手でご採択をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

(拍手)

ご協力、ありがとうございました。